東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2025 年 VOL.2(2025.7)

≫東北インカレにて、男子が 2 位と 15.5 点差で史上初の総合優勝

≫北大戦にて、男女共に総合優勝

≫渡邉優典(3)が学生個人選手権にて、1:50.01 で 800m 部記録更新

≫渡邉優典(3)が全日本インカレ・1500m にて、3:46.33 で部記録＆東北学生新記録更新

≫島村惟葵(4)が東北インカレ・棒高跳にて、5m10 で大会新記録＆優勝

≫白鳥名花(2)が東北インカレ・200m にて、24.30(+1.6)で部記録更新

目次

●第 78 回東北学生陸上対校選手権大会(東北インカレ) ----------2-13 ページ

●天皇賜杯第 94 回日本学生陸上対校選手権大会 ----------13-15 ページ

●北海道大学対東北大学定期戦 ----------15-22 ページ

●主将・女子主将及び各 PC より七大戦への抱負 ----------23-25 ページ

●自己ベスト更新者 ----------25-26 ページ

●今後の予定 ----------26 ページ

●編集後記 ----------27 ページ

向夏の候、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。
今号では、第 78 回東北学生陸上対校選手権大会、天皇賜杯第 94 回日本学生陸上対校選手権大会及び北海道大学対東北大学定期戦を中心に、各大会における選手の活躍を報告いたします。併せて、主将・女子主将・各 PC からの七大戦への抱負をお伝えいたします。

◎第 78 回東北学生陸上対校選手権大会

開催地：岩手県北上市・ウエスタンデジタルスタジアム北上

5/16(金)~5/18(日)の三日間にわたり、ウエスタンデジタルスタジアム北上にて第 78 回東北学生陸上対校選手権大会が開催されました。男子は当初の目標を大きく超え、仙台大に 15.5 点差をつけて史上初の優勝を飾りました。また女子も 5 位と目標を達成しました。各種目において目覚ましい活躍をした選手が多数となっています。対校得点の結果及び入賞者一覧と出場選手の選手報告を以下に紹介いたします。

●総合結果

男子	得点	順位	女子	得点	順位
総合	180.5	1	総合	70	5
トラック	102	1	トラック	51	4
フィールド	58.5	2	フィールド	15	5

●入賞者一覧

男子 400m	斎藤　宥哉(M2)	4 位	男子砲丸投	鍵山　弘樹(2)	6 位
	岸本　醍知(2)	5 位		根本　大輝(M2)	7 位
	平野　蒼士(1)	8 位		倉部　彰土(4)	8 位
男子 800m	渡邉　優典(3)	1 位	男子円盤投	金岡　有途(4)	7 位
	縣　昌幸（2)	3 位		石井　誠大郎(2)	8 位
	錦戸　昴雅(3)	4 位	男子ハンマー投	富家　彬就(M1)	6 位
男子 1500m	渡邉　優典(3)	1 位		金岡　有途(4)	7 位
	北嶋　僚大(3)	2 位		谷地　穣太郎(2)	8 位
	上原　佑太(M2)	3 位	男子やり投	増田　併介(3)	1 位
男子 5000m	千葉　航太(4)	3 位		川内　蒼馬(M1)	2 位
	出田　義貴(2)	4 位	男子十種競技	根本　大輝(M2)	1 位
	杉山　大輔(4)	6 位		小出　寿啓(6)	2 位
男子 10000m	出田　義貴(2)	4 位		鍵山　弘樹(2)	4 位
	照内　優允(3)	6 位	女子 100m	白鳥　名花(2)	2 位
	新田　友海(6)	7 位	女子 200m	白鳥　名花(2)	1 位
男子 400mH	水澤　大地(3)	5 位		臼井　千晴(2)	7 位
	阿部　竜胆(4)	8 位	女子 400m	臼井　千晴(2)	3 位
男子 3000mSC	杉山　大輔(4)	1 位	女子 800m	喜多　和奏(3)	3 位
	城田　健悟(2)	5 位		越後谷　苑葉(2)	7 位

	鈴木　拓真(3)	8 位	女子 1500m	佐伯　紅南(1)	5 位
男子 10000mW	山中　遼平(3)	7 位		松本　葉那(2)	8 位
男子 4×100mR	片山-菅野-堀-小南	7 位	女子 5000m	江口　真央(4)	6 位
男子 4×400mR	斎藤-室田-平野-岸本	3 位		塩見　薫(3)	7 位
男子走高跳	平山　朝陽(5)	7 位	女子 4×100mR	古閑-臼井-白鳥-大槻	5 位
男子棒高跳	島村　惟葵(4)	1 位	女子 4×400mR	越後谷-臼井-喜多-佐伯	3 位
	倉部　彰土(4)	8 位	女子走幅跳	大槻　真優(2)	5 位
男子走幅跳	早藤　海音(2)	1 位		古閑　詩季(2)	8 位
	小南　慧馬(3)	5 位	女子三段跳	古閑　詩季(2)	8 位
男子三段跳	大谷　航平(M2)	5 位	女子砲丸投	五嶋　理子(2)	6 位
			女子円盤投	五嶋　理子(2)	3 位
			女子七種競技	伊藤　真奈美(2)	5 位

●選手報告

☆男子トラック

男子　100m 予選

2 組 7 着　細川翼(2)　11.52(-0.8)

SD の飛び出しこそ良かったが、二次加速において力みが出てしまい、他の選手に差をつけられてしまった。強みとしている後半部でも力みが取れず、自分の走りができなかった。正選手という貴重な経験をさせていただいたので今後の糧としてまた正選手に選んでもらえるような記録を出したい。

3 組 4 着　小南慧馬(3)　11.10(-0.9)

本命の走幅跳の前の競技だった。コンディションは良く、自信はあった。結果 PB ではあったものの目標であった 10 秒台には届かなかった。前半は想定していたレースプラン通り焦らずに走れたが、後半の力みが出て走りが暴れてしまう課題は解決されていなかった。 走幅跳で戦う上で無風での 10 秒台のトップスピードは絶対に必要なので、そのために思考して練習を積みたい。

DNS　神近凛太郎(3)

男子　100m 準決勝

1 組 7 着　小南慧馬(3)　11.39(-0.4)

前日の疲労がやや残る中での試合だった。格上の選手ばかりだったので前に出られても焦らないことを考えていた。その結果、スタートが緩くなりすぎてピッチが上がりきらなかった。全体的に緊張感が足らず、集中力を維持できていなかったことが大きな反省点だった。 2 本のレースを通して、他大とのショートスプリント種目のレベル差は非常に大きいと感じた。少しでも差を埋めていけるように技術、力、精神の底上げをしていきたい。

男子　200m 予選

3 組 5 着　堀航太朗(2)　23.38(-1.5)

加速区間は悪くなかったが、顔を上げた後力んでしまいカーブ抜けでスピードに乗れず、後半は硬い走りになってしまった。また、全体として右ハムの違和感を庇う走りになり、思うようなタイムは出せなかった。翌日の準決勝は両ハムに痛みが出て出場を断念。

4 組 3 着　室田竜磨(3)　22.51(+0.2)

4 着までの着順で準決勝に進むことができたので、リラックスして疲労を残さないように走った。

DNS　神近凛太郎(3)

男子　200m 準決勝

2 組 4 着　室田竜磨(3)　21.88(-0.9)
天気も晴れて体の調子もよかったので、決勝進出+タイムも狙って走った。スタートでうまく加速ができ、50～100m までスピードをうまく乗せることが出来た。しかし、後半 100m は一つ前の選手を意識しすぎて固い走りとなり、前の選手を抜かすことが出来ないままゴールした。
DNS　堀航太朗(2)

男子　400m 予選

1 組 2 着　岸本醍知(2)　48.65
学連春季と比べて前半 200 を抑えめに入る。5 レーンの福祉大の様子を見て組 1 着と 2 着のどちらでゴールするかを決めようと思っていたがラストの直線に入った時点で福祉大が大分前にいたため 2 着でのゴールを決め決勝のための体力温存としてラストの 50 を気楽に走った。
3 組 1 着　平野蒼士(1)　49.14
予想外の着順通過が出来て良かったです。
4 組 1 着　斉藤宥哉(M2)　48.28
序盤はピッチを刻みスムーズに加速、300m 以降はなるべく力を使わず惰性ですすみ、そのままゴール。

男子　400m 決勝

4 位　斉藤宥哉(M2)　48.20
暑さにより、予選で消耗してしまった。決勝は 300m を 34.5 とほぼ自己ベストペースで通過するも、ラスト直線で挟み込むタイミングが合わなくなりまくられて 4 位撃沈。
5 位　岸本醍知(2)　48.27
決勝のために予選のラストを流したものの間 3 時間では完全回復とはいかず。外側のレーンに予選を 48.2 でゴールした人がいたため前半 200 を前に着いていき後半 200 で差を詰めに行くレースをした。結果としては内側の人を抜かしたものの外側は抜かしきれず。予選、決勝ともに PB を出せたのは良かったが前との差を感じた。来年は表彰台に乗れるように練習を積んでいきたい。
8 位　平野蒼士(1)　49.31
1 年生の 5 月で東北の決勝を走れて良い経験になりました。

男子　800m 予選

1 組 1 着　渡邉優典(3)　2:00.60
後半の組にいる東北大の選手がプラスで拾われる可能性を上げるため、意図的にスローの展開に持ち込む。先頭で周りの選手を翻弄しながら、自分は一着でゴール。
2 組 2 着　縣昌幸(2)　2:00.15
前半は抑えて後半上げて着順で決勝に臨もうと思っていた。位置取りが悪くポケットされた状態だったので想定より早めにペースを上げた。かなり足を使ったが、2 着でフィニッシュ。
3 組 2 着　錦戸昴雅(3)　1:57.63
スタートからゴールまで終始先頭の選手について行き、3 着目との差を意識しながら余裕を持ってゴール。決勝へ進出。

男子　800m 決勝

1 位　渡邉優典(3)　1:50.13
1 周目を 58 で引き、ラスト 1 周の鐘が鳴ってからロングスパートを展開。後続との差をどんどん広げていき、大会新記録でゴール。
3 位　縣昌幸(2)　1:54.43
目指すは C 標として走った。スローペースから始まったが感覚的にはやや速いと感じた。400m 通過あたりから前が上がってきたのに気づいたがペースの大幅なギャップは足を持ってかれるので少しずつあげ残り 200 からにピークを持って行ったつもり。2 位を差したかったが、差は覆せず 3 位。
4 位　錦戸昴雅(3)　1:54.90
東北大で表彰台を独占するつもりで臨んだ。1 周目は自分の走りやすい位置で、かつ先頭を見据える位置で通過。2 周目で先頭が急加速し、集団は縦長に。気づいたら 2 番目の他大学の選手と

の差がかなり広がっていた。バックストレートで 4 番手に上がるも追いつけずそのままゴール。位置取りに悔いが残るレースだった。

男子　1500m予選

1 組 1 着　渡邉優典(3)　4:08.31
序盤から先頭を譲らず、終始レースを引いてゴール。

1 組 2 着　上原佑太(M2)　4:08.46
序盤は後方で様子を伺いつつ、少しずつポジションをあげ、2 着で決勝進出。

2 組 1 着　北嶋僚大(3)　4:18.32
元々前に出ないプランであったが他の誰も前に出ず、すごくスローな展開となった。余裕を持ってレースを進め、ラスト 100m でスピードを上げて先頭に立ちそのままフィニッシュ。

男子　1500m決勝

1 位　渡邉優典(3)　3:57.17
最初の 200m で先頭に立ち、そこから 2 位以下との差を広げながらレースを進める。 ラスト 200m、後続の猛追をかわして一着でゴール。

2 位　北嶋僚大(3)　3:59.42
1 周目は集団の真ん中あたりに位置していたが、2 周目で先頭が飛び出して置いて行かれてしまった。そこから少しずつ順位を上げていき 4 番手に。ラスト 300m でスパートをかけて 2 番手に上がり、そのままフィニッシュ。

3 位　上原佑太(M2)　4:00.30
警戒していた山形大の選手が 2 位集団の先頭を引く展開になったので、すぐ後ろにつけて機会を伺う。ラスト 300m でスパートをした北嶋に合わせ、2 人で集団を抜け出し、フィニッシュ。目標の東北大ワンツースリーを達成できた。

男子　5000m決勝

3 位　千葉航太(4)　15:16.57
先頭集団でレースを進め残り 2000m で仕掛けようとしたが思うようにペースがあがらず、ラスト 1000m でスパートし返され 3 位でゴールした。タイムも順位も物足りない結果になってしまった。

4 位　出田義貴(2)　15:26.26
はじめから 4 人が飛び出す形となり、自分は後ろの 5 位集団で進めた。2000m あたりから先頭集団との差が変わらなくなり、余裕もあったため集団から抜け出して単独で前を追っていった。前から落ちてきた 1 人を抜かし、最後は追い上げられたもののそのまま 4 位でゴールした。事前タイムでは 9 番目であったので順位は満足しているが、タイムを出すことができなかったので悔しい結果となった。

6 位　杉山大輔(4)　15:27.83
前日の疲労が残っていたため、得点を稼ぐことを目標とした。スタートから 4 人が抜け出したため、後ろの集団で走った。1 位集団から落ちてきた選手を拾い、7 位でラスト 1 周を迎えた。最後の 200m で前の選手がスパートをかけたが、位置取りが悪くそこから 20m くらい出遅れた形でスパートをかけた。ギリギリでさしきれずに 6 位でゴールした。

男子　10000m決勝

4 位　出田義貴(2)　32:26.47
気温が 30 度近くあったこともあり、スローペースでスタートした。そのまま 3'10"/km 付近のペースでレースが進み、5000m 手前で先頭が 4 人となった。その後 7000m 付近できつくなり、ペースを落とし 4 位でゴールした。3 位が見えていただけにとても悔しいレースとなり、力不足を実感した。

6 位　照内優允(3)　32:57.07
暑さのせいかけん制する形でスタート。先頭に出てレースを引っ張った。暑さのせいか 3000 過ぎですでに動きが悪くキツさを感じていた。このままでは勝負にならないと思い、一旦ペースを落とし集団から離れた。しかし、もう一度自分の動きを取り戻せず、そのままゴール。自分の弱さを痛感するレースだった。

7 位　新田友海(6)　33:24.70

急に暑くなるという予報を見て自分なりに暑さ対策をしていたつもりだったが、まだまだ対策が甘くアップ時から暑さに負けてしまっていました。　4000m 過ぎから身体に力が入らず正直棄権も考えましたが皆様の応援の力でなんとか走りきれました。　次の試合では絶対に暑さに負けないように徹底してまいります。

男子　110ｍＨ予選

2 組 5 着　大山幹生(3)　17.33(-1.5)
調子が良く、最低でも PB の更新ができると意気込んでスタートしたが、あまりの強風に後半大失速し、思ったより汗が出ていて足を攣ってゴール。対抗戦でやってはいけないレースをしてしまった。

DNS　西里碧澄(4)

DNS　長井颯馬(2)

男子　400mH 予選

1 組 5 着　金岡有途(4)　57.58
持ち記録は到底決勝に残れるものではなかったが、あわよくばを狙って出場。雨もあり、決勝に残る可能性も見えたが、練習不足もあり、それは叶わなかった。しかし、雨というバッドコンデションの中でも PB を更新することが出来たのでよかった。

2 組 3 着　水澤大地(3)　56.02
雨の中のレース。前半からスピードを出して走った。逆足を使う場面で失敗してしまい大きく減速。2 着までに入れなかったことが悔やまれる。

3 組 2 着　阿部竜胆(4)　55.42
左足の怪我で春先から調子を上げられないまま、雨かつ気温が低いという難しい初戦だったがなんとか走り切った。スピードを上げきれず惰性でゴール。

男子　400mH 決勝

5 位　水澤大地(3)　54.73
タイムで拾われて決勝に進出。前半から攻めたレースを展開した。予選よりいい走りができた。PB に近いタイムで 5 位でゴール。

8 位　阿部竜胆(4)　1:02.34
アップからあった腰の違和感が、試合中に痛みにかわり無念の流してのゴールになった。全カレをかけた最後の試合がこんな形で終わってしまって悔しい。怪我を治してもう一度自己ベストを更新したい。

男子　3000mSC 決勝

1 位　杉山大輔(4)　9:23.05
予想通りスタートから学院大の選手と自分で前に出てレースを作った。全カレに向けてタイムも狙っていたが、土砂降りの中で障害との距離感が上手く掴めず、ペースが上がらないまま 1000m を 3'09 で通過した。心肺は余裕があったが、後半 2000m を 6'00 であがれる自信がなかったため、優勝を狙うため学院大の後ろに着いた。残り 2 周になったタイミングでスパートをかけ、後ろを大きく離して優勝することが出来た。

5 位　城田健悟(2)　9:49.83
最初は上げすぎずに入れた。途中少し苦しくなったときに一度落ち着かせてラスト 3 周くらいから上げ始めた。前を走っている人の距離とフォームの乱れから自分のペースと照らし合わせてうまい具合にあげて最後の 3 周で 3 人くらい抜かせた。5 位入賞は想定より良かったが、タイムは目標通りだったので次は PB を出したい。

8 位　鈴木拓真(3)　9:59.55
レース時の癖として入りの 1km でつっこみすぎてしまい、続く 1-2km で大きくペースを落とす展開がよくあったため、序盤は前につきすぎず離れすぎずの位置で走り、中間疾走でできるだけペースをキープ、ラスト 1km で上げて落ちてきた人を追い越す 3:17-22-17 くらいのペースでのレース計画を行いました。
結果としてはラップが 3:15-23-19 と概ね計画通りとなっていたため意識してレース展開をした

結果が出たと思います。戦績としても目標としていた 9 分台と入賞を両方達成できたため、現状でベストのものが出せたのではないかと思います。
しかし、今後更にタイムを伸ばしていくための課題も見られたレースでした。例えば全体的にタイム向上が必要なのはもちろんですが 2-3 km の上がり方が不十分であった点や障害の着地精度も課題として上げられると思います。
今回のレースは成功体験と課題の双方を発見できたいい経験となったので今後の更なる競技力向上へと活かしていきたいと思います。応援誠にありがとうございました！

男子　10000mW 決勝

7 位　山中遼平(3)　47:54.15
今年の東北インカレの時期が例年より早く 4 月末の花巻トラックが終わってから練習をし始めたため入賞して得点を取ることを目標としてレースに出場しました。正直レース前の練習状況は去年より良くなく最初の 5000 はゆっくり入って後半ペースを上げて入賞を狙おうとレース前は考えていました。レースは最初は考え通り入賞に入れる集団について 3000 くらいまでつきました、3000 過ぎくらいに山大の選手が飛び出し自身も余裕があったのでついていきました。そしてそのまま 9000 過ぎくらいまで二人でレースを進め最後のスパートで置いてかれてしまい結果 7 位でゴールしました。正直僕自身もスパート手前まで余裕があり僕が引っ張り山大の選手がつくという形でラストで引き離せるかなと思っていた部分がありました。実際ラスト引き離されてしまったのは練習不足以外の何物でもないと思います。また自身がいけるペースをもう少しわかっていたのなら最初からせめて前の集団に着けたのではないのかと思いました。次のレースになる七大戦にむけてスピードを磨いて入賞を狙っていきたいです。

10 位　田中澪(1)　56:17.53
序盤ｷﾛ 5 分を切るペースにつくも、歩形の不安と体力不足から離脱してしまい入賞を狙うことが出来ない単独での試合になってしまった。体力が戻る前に焦って競歩の練習をしたために高校の時とはほど遠いスピードの出ない歩形で歩いていた。高校時代の経験を全く活かせず不甲斐ない。

男子　4×100m リレー予選

1 組 4 着　片山(2)-菅野(4)-堀(2)-神近(3)
記録：42.41
チーム状況が悪い中ではあったが決勝進出を目指しレースに臨んだ。脚の状態に不安のあるメンバーもいた中でバトンをつなぎ切り、タイムで決勝へ進出することができ最低限の目標は達成できた。個人の走りでタイムを上げる余地もあり決勝でのタイム向上が期待できた。

男子　4×100m リレー決勝

7 位　片山(2)-菅野(4)-堀(2)-小南(3)
記録：42.07
気温も高く、良いコンディションの中でのレースだった。各々が全力を発揮できたが、所々にバトン練習の不足が垣間見えた。バトンパス次第で 41 秒台も狙えたため、悔しさと大会に向けて戦力を整える重要性を感じた。また 6 位と 0.5 秒以上離され他大とのスプリント力の差を見せつけられた。来年は他大と勝負できるよう走力、調整力を磨いていきたい。

男子　4×400m リレー決勝

3 位　斎藤(M2)-室田(3)-平野(1)-岸本(2)
記録：3:12.31
1 走の斉藤は前半から飛ばし、後半を耐え先頭集団でバトンパス。2 走の室田はマイルリレーの経験が少ない中、粘りの走りを見せ 4 着でバトンパス。3 走の平野は前半から飛ばす走りをし、バックストレートで 1 人を抜き前の 2 位との差を詰めながら 3 位でバトンパス。4 走の岸本は後半での勝負を見据え前半をリラックスし

て前の 2 位について走る。後半で勝負を仕掛けたものの詰め切る事は出来ず 3 位でゴール。優勝を目標としていただけに悔しいレースとなった。

☆男子フィールド

男子　走高跳　決勝

7 位　平山朝陽(5)　185 ㎝

雨と風でコンディションが悪い状況だったので記録よりは勝負にこだわり順位を一つでもあげようと考えていました。結果 7 位タイと、なんとか得点を取ることができ安心しています。来年は最後の東北インカレなので圧倒的な実力を持ってきてどんなコンディションでも優勝し、男子団体のフィールドの部で初の優勝を果たしたいと思います。

10 位　嶋崎雄飛(M1)　180 ㎝

雑魚オブザイヤー受賞。

NM　大泉宥太(3)

実力が不足していた。情けないばかりです。

男子　棒高跳　決勝

1 位　島村惟葵（4）　5m10

本大会は 1 位による C 標準または 5m15 の B 標準を目標に臨んだ。結果としては 5m10 で C 標準を獲得し全カレ出場を決めることができた。コンディションは最高で，途中失敗しながらもポールを変えつつ 5m00, 5m10 をクリア。5m15 を 1 回失敗した後，ポールを変え，高さを東北学生記録となる 5m23 にあげるも変えたポールが扱いきれずに失敗。課題は残ったものの全カレ入賞への希望が見えた試合となった。

8 位　倉部彰土(4)　3m80

自己ベストは更新できたものの、練習で跳べていた 4m をクリアできず、悔しい思いが強い。踏切スピードと振り上げ動作に課題が見つかったので、七大戦までに必ず修正し、島村とのダブル表彰台を達成する。

男子　走幅跳　決勝

1 位　早藤海音(2)　7m30(+1.8)

5 本目までは足が合わなかったり、助走がうまくいかなかったりして思うような跳躍ができませんでしたが、6 本目に応援と手拍子のお陰で逆転することができました。助走の安定性を上げるための練習をしようと思います。

5 位　小南慧馬(3)　6m99(+2.6)

気温が高く、100m で PB を更新した直後の競技であり自信を持って挑んだ。走幅跳でも PB は更新したものの 7m に記録をのせることはできず、同じ東北大学の選手に優勝を譲る結果となった。技術的にもコンディション的にも大きなマイナス点はなかったため、根本的な助走、踏切技術の改良を行わなければ全国水準で戦うことは難しいと痛感した。 現在の東北大学の走幅跳の選手層は近年でもかなりレベルの高い位置にある。全員で切磋琢磨し、全国で競える選手になれるよう努力していきたい。

13 位　江尻羚真(2)　6m29(-0.4)

怪我を抱えながらの出場となり、普段の助走ができず、納得いく跳躍が一つも生まれなかった。

男子　三段跳　決勝

5 位　大谷航平(M2)　14m11(+0.2)

大雨、低気温の中での競技となったが、冬期に力を入れて取り組んでいた助走の走りに関しては悪くはなく、昨年までと比較してもスピードが 1 番出ていたように思う。しかしながら、スピードに対応した跳躍ができず、記録が伸び悩むこととなった。今後跳躍練習を重ねていくことで十分に改善可能であるように感じられる内容であったため、そういった点ではプラスに捉えられる経験となった。

7 位　久保田大聖(M1)　13m65(+1.0)

前半 3 本は、ステップでの突っ張りによってジャンプに前傾した状態で入ってしまい、距離を伸ばせなかった。13m38 と低調な記録だったが、雨と低温によりエイトラインが下がり、7 番で残れた。後半はスピードを落とさず前に抜けることを意識することで修正をかけ、記録を少し

伸ばせた。悪コンディションの中で体温を奪われないようにしつつ、動きの修正をかけるのが難しかった。今後の糧にして、跳躍の再現性を上げていきたい。

14 位　根本陽大(3)　12m63(+1.8)

雨の中での試合で色々と不安要素もあったが、思い切り競技することができた。風に恵まれたのもあり、助走はかなり感触が良く、しっかりスピードに乗れた。ステップであまり飛距離が出なかったが、その分ジャンプで潰れずに距離を稼ぐことができた。大学ベストを更新できたことは素直に嬉しいが、まだまだ得点ラインに絡むことができていないので、今後は筋力やバネ強化をしつつ、技術的な要素も見直していきたい。

男子　砲丸投　決勝

6 位　鍵山弘樹(2)　10m93

前日まで行われていた十種競技で前腿を痛めてしまい、当日の朝は全く出場する気がなかった。だが、優勝争いをしているということでとりあえずピットに向かった。男子 5000m が終わり、男子総合優勝がほぼ確実になったのだが、何もせず帰る勇気はなく、5 本投げた。やる気はなかったが、それ故に脱力して投げられたのでセカンドベストの結果に終わることができた。

7 位　根本大輝(M2)　10m76

砲丸投専門の選手たちが揃う中での競技はなかなか難しかったものの、専門の選手たちの洗練された動きはとても勉強になった。結果としては自己ベストには及ばなかったが、7 位入賞で 2 点を獲得した。 東北大で出場した三人でしっかり対抗得点に貢献できたので良かったとともに技術的な課題や今後の成長のヒントを多く得る貴重な経験となった。 熱い応援を送ってくださった皆さま、本当にありがとうございました！

8 位　倉部彰土(4)　8m98

新たなフォームに変え、攻めた投擲で挑んだ。しかし再現性がなく、試合のいつもと違う環境で崩れてしまった。練習不足であることをはっきりと突きつけられたので、本職の混成に向けて、再現性をテーマに改善していきたい。

男子　円盤投　決勝

7 位　金岡有途(4)　29m16

得点を取るために出場。一投目で大きく PB を更新。5 位 6 位と僅差であったため、記録を伸ばそうと狙うも、以降は良い投擲ができず、そのまま終了。一投目が良かっただけに、そこから伸ばすことが出来ないのと、上の順位と僅差だったのが悔しかった。しかし、PB が出たのでよかった。

8 位　石井誠大郎(2)　28m76

30m 投げられなかったのはまだまだ実力不足。練習する。

10 位　小田島創太(2)　25m79

今回は、30m を目標にして出場した。しかし、気温が高く日差しも強かったため、軽い熱中症の症状が出てしまい、勝負できなかった。自分のコンディションを整えることも選手の能力の一つなので、完全に実力不足だった。しっかり準備して、今度こそ戦いたい。

男子　ハンマー投　決勝

6 位　富家彬就(M1)　37m94

1,6 投目は比較的綺麗に回れたもののファール、他はどれも加速がうまくいかず力のない投擲になってしまった。得点したものの、PB を大きく下回る記録で悔しさの残る試合となった。1 ヶ月後の北大戦でしっかり調整してリベンジしたい。

7 位　金岡有途(4)　34m33

得点を取るために出場。試合でハンマーを投げるのは一年近くのブランクがあったが、練習はそれなりに積むことが出来ていたため、不安はなかった。2 投目で大きく PB を更新し、その流れで更なる更新を狙いたかったが、かみ合わず、それ以降はまずまずの投擲だった。得点を取ることもできたし、PB 更新もできたので非常に内容の良い試合だった。

8 位　谷地穣太郎(2)　22m45

この大会は、高校で陸上を引退してからおよそ 3 年ぶりの試合で、とてもワクワクしていました。しかし、大会一日目の一番最初の競技で、アップなど調整が難しかったとはいえ、それにしてもいい所があまりない形で終わってしまいました。冨家さんや金岡さんに教えてもらった通り、重心を低くして体の回転をぎりぎりまで我慢することなどを意識して試合に臨みましたが、実際はそれができておらず、非常に難しかったです。一人が棄権したので、幸い 1 点を持ち帰ることはできましたが、とても悔しいです。それでも仙台大学など強豪校の選手の投擲を間近で見ることができたのは貴重な経験でした。この試合で得た反省を生かし、日々のトレーニングに励んでいきたいと思います。また、とても暑い中たくさんの応援をしてくださりありがとうございました。

男子　やり投　決勝

1 位　増田併介(3)　57m57

試合前の体調管理をしっかりしたい。助走速度をもっと上げてやりの角度を下げて投げ入れるような投げをする。

2 位　川内蒼馬(M1)　56m27

今シーズン 3 試合すべて 56m。記録にはうんざりしているが、点数でチームに貢献できてよかった。

11 位　石井誠大郎(2)　48m21

試合の組み立て方が下手だった。短助走から全助走へのつなぎがうまくできたら飛距離はだいぶ伸びると思う。

男子　十種競技　決勝

1 位　根本大輝(M2)　6575 点

春先にハムストリングを痛め、不安を抱えたまま迎えた今大会だったが、東北インカレでは最後まで全力で戦い抜くことができた。 1 日目は第 2 種目の走幅跳で、追い風参考ながらサードベスト相当の好記録をマークした。第 4 種目の走高跳では 1m92cm を跳んで自己ベストを更新するなど、春先の怪我を感じさせない好調ぶりを見せ、1 日目を自己ベストペースの 3497 点で折り返した。 2 日目は第 6 種目の 110mH から雨に見舞われ、コンディションが大きく崩れる中での競技となった。第 8 種目の棒高跳では、雨がさらに強まる中で 3m90 をクリアし 590 点を獲得。第 9 種目のやり投では、サードベストとなる 57m21 の記録で 696 点を獲得した。 最終的な総合得点は自己ベストには及ばなかったものの、厳しい条件の中で自分の力を出し切れたことは大きな収穫となった。 現地・遠方からの温かいご声援、本当にありがとうございました！

2 位　小出寿啓(6)　6362 点

1 日目は天気に恵まれ、砲丸投と 400m で PB を更新することができた。しかし、 2 日目は大雨により、円盤投と棒高跳が競技することもままならない状況となった。NM にならなかっただけましだったのかもしれないが、日本インカレという目標からは程遠い記録となってしまった。

4 位　鍵山弘樹(3)　5247 点

3 位を目指して挑んだ試合だった。1 日目は 5 種目中 3 種目が PB という総合的には満足いく結果だったが走幅跳で精彩を欠いたために点数が伸び悩んだ。安定感を欠いたギャンブルジャンパーだった。　 2 日目はハードルでいいスタートを切ったものの、次の円盤投げて NM を叩き出してしまい 3 位争いの土俵から降りることになった。悪い流れのままに棒高跳でも NM を叩き出して、更なる順位下降も危ぶまれた。しかし、槍投げで想定以上の投擲をすることができ辛くも 4 位で 10 種(8 種)競技を終えた。

☆女子トラック

女子　100m 予選

1 組 1 着　白鳥名花(2)　12.25(-0.4)

良いコンディションの中、落ち着いてレースを展開できたと思う。後半は余裕を持って 1 着でゴールすることができた。

DNS　古閑詩季(2)

女子　100m 決勝

2 位　白鳥名花(2)　12.38(-1.0)

雨天かつ、気温も低くコンディションがよくない中で、思うような走りができず課題が残るレースとなった。スタートで出遅れてしまい、後半も修正できず 2 着となってしまった。

女子　200m 決勝

1 位　白鳥名花(2)　24.30(+1.6)

前半 100m は落ち着いて入り、後半伸びやかに走るというレースプラン通りの走りができたと思う。コンディションに恵まれ、大幅に PB を更新することができた。このレースで全カレの A 標準並びに部記録を突破でき、チャンスをつかむことができて嬉しかった。

7 位　臼井千晴(2)　25.70(+1.6)

久しぶりの 200m でスピード不足を感じましたが、目標としていた 26 秒を切ることができたので良かったです。

女子　400m 予選

1 組 5 着　建部亜美(2)　1:05.00

天気も良く、調子が良いと感じていて前半に飛ばしすぎた。300m 通過までは良かったものの、最後の 100m で垂れてしまい、そのままゴールしてしまった。

2 組 1 着　臼井千晴(2)　59.13

疲労をあまり残さずに走り切ることができました。

2 組 5 着　越後谷苑葉(2)　1:04.59

序盤は攻めすぎずに最後まで脚を残す作戦で臨んだ。しかしスタート直後から周りの選手に気を取られ、余裕のないまま 200 を通過。ラスト 100m で 4 番手争いをするも、競り負けて 5 着となった。

女子　400m 決勝

3 位　臼井千晴(2)　57.90

前半出し過ぎずに走れたので後半も落ちずに走り切れました。大学ベストで走ることができて良かったです。

女子　800m 決勝

3 位　喜多和奏(3)　2:16.57

一周目 67 を余裕を持って入った。この時点で 5 位。500m 地点で切り替えて順位を一気に上げ、ラスト 100m地点で 2 位まで浮上。最後一人に抜かれてしまったが、5 秒ベストを更新し、3 位でゴール。

7 位　越後谷苑葉(2)　2:25.23

自分が得意な展開で走ることを決め、後方からスタート。序盤から心地よく感じられるスピードでとばし、400m 手前で第二集団から抜け出す。500m 以降で後続が追い上げてくるが粘り、7 着でフィニッシュ。

女子　1500m 決勝

5 位　佐伯紅南(1)　4:55.67

久々の 1500m だったが、最低限の目標であった 5 分を切る事が出来た。また、後半にかけてペースをあげることが出来た。来年はベストを更新して 4 分 30 秒台を出したい。

8 位　松本葉那(2)　5:24.32

暑さ対策をしておらず熱中症になり、大変ご迷惑をおかけしました。自分の準備や体調に対する意識の甘さを痛感する大会となりました。今回の反省をしっかり活かして今シーズンの練習に励み、秋には 5 分切れるように頑張ります。

女子　5000m 決勝

6 位　江口真央(4)　18:41.56

序盤集団で走りゆとりを持った走りができた。後半は徐々に上げていき、最後は力を振り絞って前との距離を詰めたが抜かし切れずにゴール。

7 位　塩見薫(3)　18:46.82

集団の中で走ることで中盤まで余裕を待ってレースを進められた。しかしラストは上げ切ることができず悔しさが残った。

女子　400mH 予選

1 組 6 着　建部亜美(2)　71.32
7 台目通過時点では、PB を上回るペースで走れていたものの、8 台目で歩数が合わず大幅に減速してしまった。そこから上げられずにゴールしてしまった。

女子　4×100m リレー決勝

5 位　古閑(2)-臼井(2)-白鳥(2)-大槻(2)
記録：50.72
1 走古閑と 2 走臼井はそれぞれ持ち味のスタートのキレと、後半の伸びが光る走りで良い流れのまま 3 走の白鳥にバトンパス。最後、当日のオーダー変更で 4 走を走った大槻が追い上げ、結果目標を上回る 5 位となった。今回は長く 4×100mR を走ってきた 4 年加賀谷の不在、4 走出走予定だった 3 年末岡のアクシデントなど決して万全なチーム状態ではなかったが、今後の対抗戦につながる良いレースができたと思う。

女子　4×400m リレー決勝

3 位　越後谷(2)-臼井(2)-喜多(3)-佐伯(1)
記録：4:04.43
7 レーンからのスタート。1 走の越後谷は他大学の選手に圧倒されながらも、持ち前の粘り強さで最後まで食らいつく。2 走の臼井は圧倒的走力で大きく離されていた山形大に追いつき、最後抜き返されたもののほぼ同着で 3 走喜多へバトンを渡す。ここで山形大を抜き、4 位へ浮上。後ろに着いた山形大を最後離しながら 4 走佐伯へバトンを繋ぐ。佐伯は、大きく差がついていた前の学院大をラスト 100m で一気に抜き去る走力を見せつけ、3 位でゴール。

☆女子フィールド

女子　走高跳　決勝

NM　鈴木碧恋(M1)
5 年ぶりの復帰戦でした。楽しみながら試合をすることができました。次回は記録や結果を狙いに行きます。

女子　走幅跳　決勝

5 位　大槻真優(2)　5m26(+1.4)
今シーズンはまだ跳び方を変えた直後の試合しか出ておらず、良い記録が出ていなかったため、東北インカレで大幅 PB を狙っていた。大会が近づくにつれて課題や学連などで疲労が溜まり、調整も予定通りいかず、当日も悪天候で厳しい状況だと思ったが、かえって緊張することなくリラックスした跳躍ができた。今後は全助走の練習が足りていないことと、助走スピードが遅いという課題を克服し、さらに記録を伸ばしたい。

8 位　古閑詩季(2)　4m68 (+1.2)
助走がなかなか合わず、自分の本来の跳躍をすることができなかった。1,2 本目はファールとなり、3 本目を記録するまで、足合わせをすることが第一目的の大会となってしまった。 4 本目以降は大きく記録を伸ばすことができず、セカンド記録の差で 8 位だった。
DNS　末岡由衣(3)

女子　三段跳　決勝

8 位　古閑詩季(2)　9m74(+0.1)
前日の走幅跳でバネを使い切り、思うように跳ねることができなかった。エントリーが少ない中、6 本跳ぶのは体力的にきつかったが、スタンドからの応援のおかげもあり、パスすることなく跳びきることができた。

女子　砲丸投　決勝

6 位　五嶋理子(2)　9m18
体がはやく開かないように注意した。雨が降っていてコンディションはよくなかったが自己ベストを出すことができてよかった。グライドの

流れがスムーズにできるように練習していきたい。

女子　円盤投　決勝

3 位　五嶋理子(2)　33m22
一投目から五投目までは緊張で思うように投げられなかった。しかし、投げを修正できていた。ターンの最初はゆっくり大きく動くこと、下半身から上半身に力を伝えることを意識すると六投目で記録が大きく伸びた。

女子　ハンマー投　決勝

DNS　末岡由衣(3)

女子　七種競技

5 位　伊藤真奈美(2)　3074 点
高校以来、2 年ぶりの七種競技だった。準備期間も短く、ベストからは遠い競技だったが、とても楽しかった。練習を積み、来年はしっかりと勝負したい。

◎天皇賜杯第 94 回日本学生陸上対校選手権大会

開催地：岡山県・JFE 晴れの国スタジアム
6/5(木)~6/8(日)の 4 日間にわたり、岡山県の JFE 晴れの国スタジアムにて天皇賜杯第 94 回日本学生陸上対校選手権大会が開催されました。東北大学陸上競技部からも複数名が出場し、素晴らしい活躍を見せてくれました。出場選手の選手報告を以下に紹介いたします。

●選手報告

☆男子トラック

男子　800m 予選

5 組 2 着　渡邉優典(3)　1:50.74

1 周目は東大の吉澤に集団を引かせ、2 周目から飛び出る。ラスト 150m まで私は先頭を引いたが、最後の最後で筑波大医学部医学科の木佐に差されてゴール。 着取りで準決勝進出を果たした。

男子　800m 準決勝

2 組 6 着　渡邉優典(3)　1:51.60

1 周目は後ろから集団を追い、56 秒で通過。ラスト 300m から勝負を仕掛けにいった。しかし、それ以上に先頭集団は強く、前を走る選手がどんどんと遠ざかっていく。 最後まで諦めずに粘るも、差を埋められずにそのままゴール。

男子　1500m 予選

3 組 6 着　渡邉優典(3)　3:46.33

スタートは出遅れたが、一人一人確実に抜かしていって、気づいたときには 6 位でゴールしていた。 いわゆるゾーンに入っていたような気がする。

男子　1500m 決勝

13 着　渡邉優典(3)　3:54.08

スタート後、後ろから集団を追うが、2 周目からのペースアップに対応できずに離されてしまう。ラスト 200m、振り絞る意識でラストスパート。最後 1 人を差してゴール。

男子　4×400m リレー予選

2 組 6 着　斉藤(M2)-岸本(2)-平野(1)-室田(3)

記録：3:11.18

部記録はもちろん、3 分 9 秒台を目標にしていただけに、悔しい結果となった。1 走の斉藤は 200m をおよそ 22.0 通過と序盤から攻め、6 着で岸本へバトンパス。岸本は、持ち前の、後半の捲りで先頭集団に肉薄し、ラップタイムは PB の 46.7。依然 6 着。平野は、バトンを受け取った直後、他大学の選手に阻まれ大幅減速をしたが、もう一度加速し、最後まで順位を維持した。4 走の室田は、200m の選手ということもあり、前半をのびのびと加速し、後続を引き離した。アキレス腱を負傷しており、満身創痍になりながらも、ベストの走りをしてくれた。チームのモチベーションは、すでに次戦、北日本インカレへと切り替わっている。

☆男子フィールド

男子　走幅跳　決勝

15 位　早藤海音(2)　7m41 (+0.7)

全カレの 3 本目で自己ベストを 10 センチ更新できたことは素直に嬉しいのですが、自己ベストを更新できてもベスト 8 の人達との記録の差がまだまだあり、実力差を感じる試合となりました。これからの目標はまずは B 標準を突破することです。走力をつけ来年は全カレで入賞したいです。

男子　棒高跳　決勝

NM　島村惟葵(4)

応援してくださった皆様方ありがとうございました。このような結果で終わってしまいすごく不甲斐なく思っています。当日は自分ではあまり緊張していないつもりでしたが，体はしっかりと緊張しており思うような動きができず，また助走のときの距離感のずれが酷く，適切な対応ができていませんでした。実力不足と大きな舞台での経験不足を実感いたしました。今回の反省を活かし，来年以降全国で活躍できるよう精進いたします。

男子　やり投　決勝

17 位　増田併介(3)　61m59

全体的に吹き上がってしまった。助走を攻めて記録を狙いに行った結果だが、安定感がないので保持や助走を安定できるようにしたい。

男子　十種競技

15 位　根本大輝(M2)　6692 点

全国大会では十種競技に出場し、6692 点を記録した。 1 日目は 100m で 11 秒 34 とまずまずの滑り出し。走幅跳では安定感を欠いたものの、サードベストとなる 6m63 を記録しました。得意の走高跳では思うように調子が上がらず、1m83 で競技を終えましたが、苦手な 400m では 51 秒台中盤でまとめ、1 日目を 3469 点で折り返しました。 2 日目は 110mH で 15 秒 27 の自己ベストをマークし、好発進となりましたが、続く円盤では冷静さを欠き、30m を超える投擲ができませんでした。棒高跳では 4m10 と悔しさの残る結果に。やり投でも自己ベストに及ばない 54m にとどまりましたが、最後の 1500m では粘りの走りで 2 日間を締めくくりました。ここまで支えてくださった OBOG の皆様、指導してくださった先生方、そして一緒に戦ってきた仲間たちに、心より感謝申し上げます。

☆女子トラック

女子　100m 予選

2 組 4 着　白鳥名花(2)　12.08(-0.4)

100m は初の全国大会だったため、レベルの高さを痛感しました。一方で、スタートで前に出られる展開は予想していたため、そこで焦らず後半は自分らしい走りができたと思います。ラストの競り合いで一歩前に出ることができ、4 着でのゴールとなりました。

女子　200m 予選

5 組 4 着　白鳥名花(2)　24.49(-0.0)

前半はある程度リラックスしながらついていき、後半に伸びのある走りをするというレースプランだったので概ねプラン通りに走れたと思います。着での準決勝進出を目標にしていたため実力の不足を感じましたが、ラストの粘りが功を奏してプラスで準決勝進出を決めることができました。

女子　200m 準決勝

1 組 5 着　白鳥名花(2)　24.52(+0.1)

前半先行される展開とはなりましたが、ラストで競り勝ち 5 着でのゴールとなりました。直近の全国大会である学生個人選手権よりもよい立ち位置で勝負ができたことは嬉しかった一方で、まだまだ全国のトップレベルの選手との力の差が大きいことに気付かされたレースとなりました。

◎第 86 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦　兼　第 38 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦

開催地：宮城県加美町・陶芸の里スポーツ公園陸上競技場

6/15(日)に、宮城県加美町の陶芸の里スポーツ公園陸上競技場にて第 86 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 38 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦が開催されました。北海道大学との接戦を制して、男女ともに優勝を飾りました。雨上がりで湿気が多く、蒸し暑い気候の中ではありましたが、多くの選手が PB や UB を更新し。素晴らしい活躍が見られました。以下に対校得点の結果と対校種目に出場した選手の選手報告を紹介いたします。

●選手報告

☆男子トラック

男子　100m 決勝

1 位　室田竜磨(3)　10.84(-1.1)

悪くない。

3 位　島村惟葵(4)　11.10 (-1.1)

初めてトラック種目で対抗に出場させていただいた。10 秒台で走ろうと思っていたが，加速期で上半身が早く上がってしまい，後半で再加速することができず，最後に北大の選手に抜かれ，10 秒台にも乗らなかった。得点もとり，最低限の仕事はできた。

4 位　小南慧馬(3)11.19(-1.1)

走幅跳と時間が重なり移動が慌ただしく、十分に集中しきれていなかった。またこの試合に向けてピーキングしていなかったので疲労が残っており、中間以降の動きが鈍く、キレがなかった。課題は明確になってきたので修正していきたい。

男子　200m 決勝

2 位　鍵山弘樹(2)　22.96(0.0)

200 を走ってみたかったので出させてもらった。5 種目ということで疲労もあり、最後の 30m で足が動かなくなり、ギリギリで刺されて 5 着になってしまった。200 は意外と長かった。

3 位　小南慧馬(3)　22.75(0.0)

1 年以上ぶりに走った 200m だった。前半にピッチを使いすぎないことを意識したがそれでもコーナーを抜けてから全く体が動かなかった。この日 4 種目目であり疲労もあったが、それ以上に走りの技術とトップスピードが足りないと感じた。効率の良い走りを身につけられるように練習を重ねていく。

DNS　稲谷将幸(3)

男子　400m 決勝

4 位　菅野涼太(4)　50.07

前半は快調なピッチでスピードに乗ることができたが、後半の切り替えでうまく力を入れられず、後続に抜かされ 4 着となった。暑さへの対応ができず悔しい結果となった。

5 位　星川昂太 (2)　51.12

初めて正選手として出場させていただきました。大きく PB を出すことができたものの、対抗種目に出ることの意味や責任を北大の選手と実際に走ってみて重く受け止めました。点数をとりにいくという役割を背負っている以上、半端な気持ちで出場することや、今回は調子が良くなかったなどの甘い気持ちも許されないと今回の大会で知ることができました。もっと実力をつけて、自信を持って他大学の選手と戦えるように成長していきます。応援ありがとうございました。

DNS　長田悠希(3)

男子　800m 決勝

1 位　渡邉優典(3)　1:53.77

序盤からハイペースでレースが進み､500m 地点はトップで通過したが、その後東北大の縣(2)に抜かされる。止まりそうになる体に鞭を打ち、最後の直線で意地のラストスパート。そのまま縣をちぎってゴール。

2 位　縣昌幸(2)　1.54.24

序盤ハイペースで PB を狙いに行ったレースであったが 200 通過したあたりで北大の人に前をブロックされてやや減速、400 で抜きペースをあげるが足が持たず失速。順位変動が多い試合で勝負という観点では、良かったと思う。

4 位　錦戸昴雅(3)　1:55.33

ハイペースでどこまでいけるかチャレンジした。予定よりやや遅めの 55 秒で 3 番手通過したがラスト 200 で体が動かなくなってしまい、ラストの直線で 4 番手に後退しゴール。タイムはまずまずだったが実力差を見せつけられたレースだった。

男子　1500m 決勝

2 位　渡邉優典(3)　3:59.58
スタートから 1400m 通過まで先頭を引っ張る。しかし、ラストの直線で北海道大の宮瀬(D1)が怒涛のラストスパート。私はそれに対応できずにそのままフィニッシュ。

5 位　鈴木朝陽(2)　4:12.12
初めての対抗戦に出させてもらったが、勝負できず得点にも絡めず悔しかった。

6 位　長井春樹(6)　4:17.87
自分は 6 年で七大戦もルール上出られないことから、最初で最後の対抗戦での代表選手として出場させていただきました。順位だけでなく自己ベストも狙って臨みましたが、結果としてはどちらも満足のいくものではありませんでした。それでも、これまでの競技生活を振り返ると、代表に選ばれるという経験自体が初めてであり、応援される嬉しさや、それに伴う責任感といったものを、これまでの陸上人生の中で感じる機会はほとんどありませんでした。そんな思いを、競技生活の終わりを迎えた今になって、ようやく味わうことができたのだと感じています。ありがとうございました。

男子　5000m 決勝

2 位　出田義貴(2)　15:33.01
順位はもちろんですがタイムを出すことをメインの目標としてレースにのぞんだ。2 分 56 秒くらいで入り、単独走で進めていったが、暑さもあってか徐々にペースを落としていき、ラスト 3 周で後続に追いつかれた。その後スパートをかけられて 2 位でゴールした。タイムも順位も納得できないものだが、一人で速いペースで押していくという経験ができたことをプラスにとらえ次以降のレースにつなげていきたい。

5 位　小林由輝(M1)　15:48.74
スタート後 4 位集団を 3 人で形成。終盤まで 4 位争いをしていたが、4 位の選手のペースアップに対応出来ず、そのまま 5 位でゴール。

6 位　照内優允(3)　16:31.79
暑さ対策を行い、日差しは避けて過ごしていたが、脱水状態になってしまい後半 3000m は体が動かなくなってしまった。対応策を考えたうえで、しっかりと戦える実力をつけていきたい。

男子　110mH 決勝

1 位　長井颯馬(2)　15.01(-1.3)
捻挫明け 2 日目で挑んだレースだった。1 ヶ月走っていなかったので後半たれてしまったがコンディションを考えるとそこそこ走れていたと思う。

2 位　鍵山弘樹(2)　15.18 (-1.3)
アップが不十分で少し不安はあったが、意外と体が動いたためいいパフォーマンスができた。特に 7 歩アプローチが実践で戦えるレベルになったことが大きな収穫。試合前から記録は狙ってなかったが、結果的にほぼ PB のタイムだった。

5 位　大山幹生(3)　16.50 (-1.3)
スタートから出遅れて、後半も前に追いつけなかった。実力不足を痛感。

男子　400mH 決勝

1 位　小出寿啓(6)　52.39
28℃晴れという良いコンディションだった。久しぶりに好条件でレースができ、とても走りやすかった。 練習より動きが良く、ストライドが楽に広げられたため、14 歩で走る区間を 5 台目まで伸ばそうとしたが、後半に垂れてしまうことを恐れて練習通り 4 台目まで 14 歩に決めた。結果的には後半まで体力が余ってしまい、出しきれないままゴール。しかし、PB を更新することができたため、記録自体も良い上に今後の課題が見つかった良いレースとなった。

3 位　鍵山弘樹(2)　58.03
九台目まで 15 歩で行けたが、前半はずっとインターバルで詰まっていて伸び伸びはしれなかった。練習と試合のストライド、ピッチの乖離がひどかった。インターバルランの調整能力の無

さを突きつけられたが、気楽に出た久々のヨンパーは楽しかった。

DNF　水澤大地(3)

スタートから足を攣り最後まで走りきることができなかった。

男子　3000mSC 決勝

2 位　杉山大輔(4)　9:41.52

部記録を狙うために 3:00 で入り、後半 3:05 前後で粘るプランでスタートした。予定通り 1000m3:01 で入れたが、想定以上に体がキツくそのままペースを落としゴール。体調を崩し、部記録を狙える状態ではなかった。体調を整え七大戦は失敗しないようにしたい。

DNS　城田健悟(2)

DNS　新田友海(6)

男子　5000mW 決勝

1 位　山中遼平(3)　23:25.14

七大戦に向けて自分の現状を知るために挑んだレースでしたが、結果として自身が思うようなタイムがでず、課題が明確になった試合でした。

3 位　田中澪(2)　25:37.62

事前に予想していたよりも気温が高く日差しも強くなり、過酷な環境になった。北大の選手が最初飛び出し、かなり距離がついてしまったが、中盤からペースが落ちているように見えたので、タイムよりも順位を狙って徐々に距離を詰めていった。残り約 2 周で追いつき、歩形を鑑みるに最後のスパートで勝てると思っていたが、残り 1 周のスパート勝負で負けてしまい、自身の体力のなさを痛感しました。

男子　4×100m リレー決勝

1 位　小南(3)-島村(4)-室田(3)-菅野(4)

記録: 41.57

1 走の小南がスタートダッシュを決め北大に先行し、2 走の島村が 10.47 の実力者相手に粘りの走りを見せた。3 走の室田も実力通りの走りを見せてリードを広げ、4 走の菅野がそのリードを守り北大に先着した。

男子　4×400m リレー決勝

2 位　水澤(2)-菅野(4)-星川(3)-渡邉(3)

記録: 3:22.65

日本インカレ直後で戦力を揃えられない中で七大戦に向けて新戦力を試すレースとなった。苦い結果に終わったがこれを糧に七大戦では良い結果を残せるよう努力したい。

☆男子フィールド

男子　走高跳　決勝

2 位　根本大輝(M2)　1m86

1m86 を記録し 2 位だった。1m75 から競技を開始し、1m80 まで 1 回でクリア。1m83 はパスし 1m86 を 2 回目でクリアするも 1m92 はクリアできず、試技数差で 2 位となった。

3 位　嶋崎雄飛(M2)　1m80

熱中症になっちゃった。

4 位　鍵山弘樹(2)　1m75

上 3 人が実力的にひとまわり上なので、無理せず 4 位を狙いに行った。踏切の技術的課題を少し改善できたのでいい内容だった。

男子　棒高跳　決勝

1 位　島村惟葵(4)　4m00

今回は対抗戦で複数種目に出場する上，大会記録も不明なため記録は一切考えず 1 位が決まる高さで 1 本だけ跳び終わりにした。一応 4 連覇。

2 位　吉岡樹吏哉(1)　3m50

気温が高くポールが柔らかくなって流れてしまった。また、受験を挟んで体力がなくなってしまい連続試技がきつかった。

NM　大泉宥太(3)

実力不足でした。情けない限りです。

男子　走幅跳　決勝

2 位　小南慧馬(3)　6m73(+1.2)

100m と時間が被り、また疲労が残っているのもあって全く競技に集中できていなかった。3 本目までに記録を残して競技を終えたかったが、助走も遅く、足合わせも下手で全く想定通りにならなかった。試合に出るときはしっかり集中しておかないと怪我にも繋がるため今回の試合運びはしっかり反省したいと思った。

3 位　大場康平(2)　6m53(+0.3)

大学ベストかつ宮城県選標準記録突破で一安心したが、もう少し欲しかったなというのが正直な感想です。

4 位　坂元泰(M1)　6m33(+0.7)

踏切前のビビりがあり、思ったような記録が出なかった。ただ、徐々には調子が上がってきているのを感じた。

男子　三段跳　決勝

2 位　大谷航平(M2)　13m86(-0.7)

想定より暑い中での競技となり、思うように身体に力が入らない中での競技となってしまった。5 月の東北 IC より改善を試みた跳躍技術に関してはかなり向上が見られたが、助走が走れず記録が停滞した。

3 位　久保田大聖(M1)　13m39(0.0)

アップでハムストリングを攣ってしまい思うように力を出せなかった。疲労が溜まっていて調整も思うようにできず、コンディションも良くなかった。

5 位　根本陽大(3)　12m35(0.0)

暑さに順応しきれなかったのと、右足の筋肉痛が治りきらなかったこともあり、調子が上がらなかった。また、水分・塩分不足により試技途中で足を攣ってしまい、6 本全て跳び切る事が出来なかった。色々不完全燃焼で終わってしまったため、これから夏季に向け暑さに順応しつつ、練習を積んでいきたい。

男子　砲丸投　決勝

1 位　宮崎ローレンス(1)　10m87

まさかの優勝。11m を安定して投げられる一年ののぶひろくんがあまり伸ばせず、なぜか私が優勝してしまう結果となった。七大戦ランキングでは 11m 後半が何人もいるため、今後は砲丸投げに力を入れてそれらに打ち勝っていくのを目標として頑張っていきたい。

2 位　松下典弘(1)　10m72

11m を目標にして臨みましたが、内容・記録ともに満足のいかない結果でした。原因としてはファールを恐れ腰が引いた投げになっていたことと、左足のブロックが甘かったために体の捻りを活かせなかったことがあると思います。練習投擲では 11m 投げられていたこともあって、トライアル形式の練習が足りていなかったと反省しました。 大学初試合で良い結果は残せませんでしたが、課題が多く見つかったので修正して七大戦に備えます。

3 位　鍵山弘樹(2)　10m59

疲労と暑さから、投げる瞬間に毎回体が攣っていた。とはいえ近年稀に見るいい動きをしていた。なので、東北大の他 2 人に負けたこともベストが出なかったことも悔しい。たぶん疲労のせい。七大に向けていい試合になった。

男子　円盤投げ　決勝

1 位　宮崎ローレンス(4)　36m20

自己ベストを 1m32 更新する満足のいく投げ。しばらく試合で 35 付近を投げられていなかったので、この試合の前半戦で三投とも 35 付近に投げられたのはとても収穫のあることだった。技術的な面では大きな成長を感じられるが、今のところ打ち止めのような気もしているのでトレーニング含め充実した 1 ヶ月を過ごして七大戦に臨みたい。

2 位　鍵山弘樹(2)　33m21

相変わらずファール癖があり、ハードルのレースも重なった結果三投目まで30m にすら届かなかった。4 本目で、33m にのせることができ公式戦 PB ではあるが、練習でもっと投げているので悔しさが残った。3 投でしっかり決められ

なければ十種や七大では勝負できないのでしっかり修正したい。

3 位　金岡有途(4)　29m73

一投目からベストを更新する良い投擲だった。記録を上げていければと思ったが、そのままで終わってしまった。目標としている 30m に届かず、悔しい結果ではあったが、ベストを更新できてよかった。

男子　ハンマー投　決勝

1 位　富家彬就(M1)　36m97

3 ターン目まではとても綺麗に回れていた。4 ターン目の更なる加速に耐えられる技術と筋力の必要性を痛感した。

2 位　宮崎ローレンス(1)　33m22

メイン競技の円盤投げに力を入れているシーズンのため練習時間が思うようにとれなかったが、冷静な 2 回転で一投目から記録を出すことができ、リラックスした状態で戦うことができた。一方で、一位を取った富家さんとの技術や基礎力の差を痛感させられたため、今後も努力が必要と考えている。1 番身につけたいのは 2 回転で安定して 35m を放る技術と、攻めの 3 回転の成功率を上げることであり、七大戦までにそれらの練習を積んでいきたい。

3 位　金岡有途(4)　29m53

回転が巧くはまらず、納得のいく投擲では無かった。しかし、入賞という仕事は果たすことができたのでそこは良かった。

男子　やり投　決勝

1 位　増田併介(3)　60m78

2 週連続の試合であるにも関わらず 60m 投げられたのは良かった。肘が少し痛むのでケアに気をつけたい。

2 位　石井誠大郎(2)　52m27

感覚は良くなかったが、思ったより飛んでいた。

3 位　清水颯太(1)　44m59

3 位を守れたのは良かったが、PB ではなかったので満足はしていない。

☆女子トラック

女子　100m 決勝

1 位　古閑詩季(2)　13.28(0.0)

走幅跳と競技が被っており、100m のためのアップ等は一切していないが、PB を出すことができた。スタートから前を走ることができ、冷静に走ることができたので非常に良かった。

5 位　末岡由衣(3)　14.54(0.0)

スタートの練習不足。一年前の走りと同じ走りになってしまった。自分の体と向き合いつつ、今できる最大限の練習をつんでいきたい。

DNS　白鳥名花(2)

女子　400m 決勝

1 位　臼井千晴(2)　1:00.22

前半抑えすぎてしまった。

3 位　加賀谷美結(4)　1:03.06

序盤から落ち着いて加速を見せる。200m 地点からギアを変えて外側の北大の選手に食らいつこうとするも、前半でできた差をうまく縮められず、3 着でゴール。

5 位　建部亜美(2)　1:04.80

前回の反省を活かして前半は楽に走ることができたが、最後の 100m で思うように伸ばすことができずに、5 着でゴール。

女子　800m 決勝

1 位　喜多和奏(3)　2:19.70

最初から全て引くつもりで速めに 200m 入った。途中危ない場面もあったが、北大さんを寄せ付けず、最後まで前で引ききり、一着でゴール。

3 位　越後谷苑葉(2)　2:25.02

2:20 切りを目標に序盤から先頭集団にくらいつくが、慣れないペースに対応できず。600m 以降から垂れつつも後続から逃げ切り 3 着でゴール。

5 位　加賀谷美結(4)　2:29.59

いつもよりもゆったりとしたペースで加速していく。200m 地点から集団に離されてしまい、単

独走となる。複数競技の疲労からスパートを思うようにかけられず、5 着でゴール。

女子　3000m 決勝

2 位　江口真央(4)　10:44.55

2 位集団に着くかたちでスタート。イーブンペースでレースが進む中、徐々に人数が減っていき、最後は接戦になったが 2 位でゴール。

4 位　塩見薫(3)　10:49.94

4 位以内に入ることを目標に終始集団で走った。ラスト 300m 過ぎから前と差が開いてしまい、そのまま 4 位でゴールした。

女子　100mH 決勝

2 位　伊藤真奈美(2)　17.44(-0.2)

PB を更新することができて良かったです。しかしハードリングやアプローチなど改善点も再認識するレースだったので、練習の中で一つ一つ改善していきます。

5 位　上田綾乃(1)　17.98(-0.2)

一台目からスピード感を持って入ることが出来なかった。また、自分の走力の低さを痛感した。七大戦には 16 秒台を出せる力をつけたい。

6 位　建部亜美(2)　18.25(-0.2)

スタートから出遅れてしまった。インターバルが 3 歩で行けず、4 歩で逆足も使いながらも追い上げられずに 6 着でゴール。

女子　4×100m リレー決勝

1 位　古閑(2)-臼井(2)-加賀谷(4)-末岡(3)

記録: 51.63

1 走からのリードを 2, 3, 4 走が徐々に広げ、2 秒近くの差をつけてゴール。バトンパスのミスはなく、スムーズに 4 走までバトンを繋げることができた。このメンバー、走順で走るのは初めてのレースで、練習期間も短かったが無事ゴールできて嬉しく思う。七大戦へ向けて、個人の走力向上と、バトンパス練習を積み重ねていきたい。

☆女子フィールド

女子　走高跳　決勝

3 位　鈴木碧恋(M1)　1m40

徐々に体の動きが戻ってきた。しかしまだ走力、筋力などまだまだ満足のいくものではなく、跳躍に活かしきれていない。これからは技術練習などにも重きを置きながら、納得のいく動きになるように日々の練習を積み重ねていきたい。

4 位　伊藤真奈美(2)　1m35

助走やフォームを変えて初めての試合でした。しっかりと反省し、七大戦に活かしたいです。

5 位　大槻真優(2)　1m20

走高跳に挑戦して初めての試合で、わからないことが多くあったが練習で跳べた高さを本番でもクリアすることができた。まだ跳び方がよくないが、これから練習を重ねて力をつけたい。

女子　走幅跳　決勝

1 位　大槻真優(2)　4m77(+0.8)

練習跳躍でうまく踏み切りができず、踏切位置も合っていなかったが動きの確認に意識がとられた。動きの感覚は取り戻せたものの、五回ファールと 30 センチほど手前からの踏切という恥ずかしい結果となってしまった。これまでもファールが多かったので、今後は足合わせの技術を身につける練習をしていきたい。

2 位　古閑詩季(2)　4m55(+1.5)

踏切板に足を合わせるような跳躍が多く、記録を出すことができなかった。最終跳躍(4m55)はそれまでの跳躍を修正しつつ、100m を走ったスピード感を生かした跳躍でまとめることができた。着地で左足が落ちてしまい、記録としては納得していないが、2 位で終わることができて良かった。

3 位　平山梨緒(1)　4m53(+0.7)

今回は初戦となる試合だったが、初戦とはいえ足を合わせることが出来た跳躍が 1 本もなかったのはかなり悔しい。1,2 本目がファールで 3 本目は記録を残すために助走を抑えた跳躍になり、4 本目以降もファールだったり板を踏まなかっ

たりという跳躍になった。助走前半から中盤にかけてのストライドやリズムが全く安定していないことが主な原因だと思うので全助走で着地動作を入れずに助走の流れから踏切までを確認する練習に力を入れたい。

女子　砲丸投　決勝

1 位　五嶋理子(2)　8m79
有効だった試技はスピードに乗っておらず、記録が伸びなかった。また、下半身から動く意識が弱くなり、腰が入らない投擲が多くなった。3 投目が 1 番スピードに乗っており飛距離は出たが、ファールだった。

3 位　伊藤真奈美(2)　7m01
PB ではありますが、投擲パートとして不甲斐ない記録であると思います。グライドの練習をして、さらに記録を伸ばしたいです。

6 位　古閑詩季(2)　5m56
練習不足もあり、納得のいく試技がなかった。ミスによるファールもあり、悔しさが残る結果になった。砲丸投の練習自体は、様々な面で学びが多く、自分の専門種目にも活かすことができると感じているため、今後も機会があれば出場したい。

女子　やり投　決勝

3 位　伊藤真奈美(2)　25m28
高跳びから気持ちの切り替えができず、不甲斐ない競技であったと反省しています。七大戦で PB を更新できるよう、何が原因であったかきちんと見直したいと思います。

4 位　五嶋理子(2)　21m56
試技の間に自分の投擲を確認しながら競技を進めた。予選の 3 投では動きが小さくなっていたので記録が伸びなかった。

5 位　平山梨緒(1)　20m98
投擲種目に初めて挑戦し、練習も十分には出来なかったが、目標としていた 20m は達成できた。ただ、まだ身体全体を使って力をやりに伝えられる投擲の感覚を掴めていないので、7 種に挑戦するためにまた練習を積んでいきたい。

◎主将・女子主将・各 PC より七大戦への抱負

全国七大学対校陸上競技大会が 7 月 26-27 日の 2 日間にわたって、札幌の円山運動公園にて開催されます。七大戦を迎えるにあたり、主将・女子主将、各 PC からの抱負を以下に紹介します。応援のほどよろしくお願いいたします。

◆主将　倉部彰土

主将を務めております、倉部彰土です。OBOG の皆様には、平素より多大なるご支援・声援をいただき、心より御礼申し上げます。とりわけ今季の日本インカレが遠方開催となったことに伴い、三秀会の皆様から遠征費の追加補助をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、来たる七大戦におきまして、本年度は**「男女共に総合優勝」**を目指します。

これまでにも七大戦で総合優勝を掲げた年はありました。しかし、私が陸上競技部で過ごした 4 年間の中で、これほどまでに部員から勝利への執念や「今年はいける」という気概を感じた年はありません。それはひとえに、今シーズンのチームとしての一体感と勢いの賜物です。

今シーズンを振り返りますと、東北インカレでは史上初の男子総合優勝、北大戦で男女共に優勝と、負けなしの非常に良い流れで対校戦を消化できています。個々の競技力の向上はもちろんのこと、各部員が対抗得点を 1 点でも多く持ち帰るつもりで競技に取り組んでくれた結果です。

また、前主将の西尾のもと、昨年の七大戦で男子 2 位、女子 3 位という結果を残し、ついに優勝を狙えるというチームだという自信が部員に浸透したことも今季の勢いに繋がっています。今年は七大学合同で七大学ランキングを作成し、戦力分析を行なっていますが、それを基にした各校の総合得点では男女共に東北大と大阪大が数点差で優勝争いをする構図になっています。当日の流れによって容易に結果が変わりうると予想されますが、私も主将の締めくくりとしてチームが勝つためにできることを全て尽くす所存です。

私自身は、非常に優秀な PC 達に恵まれています。パート内全員で行う補強を増やし、コミュニケーションをとる機会を増やすなど、良い雰囲気を作りに努めてくれています。何より対抗得点を最大化するための提案を自発的にしてくれる姿勢には大きな心強さを感じています。非常に頼もしいですし、この幹部チームだからこそ、優勝を持って帰って恩返ししたいという思いも強いです。

最後になりましたが、OBOG の皆様からの温かいご支援・声援が私たちの大きな力となっています。ぜひ引き続き応援のほど、よろしくお願いいたします。

◆女子主将　加賀谷美結

女子主将を務めております、加賀谷美結です。日頃より OBOG の皆様には、遠征費補助を始めとする多くのご支援・ご声援をいただき、大変感謝申し上げます。大会運営に協力して下さる方々や、今も尚競技を続けている方々の活躍、皆様からの温かい声援 1 つ 1 つが部員の力の源となっています。

本格的に暑さも増す中、いよいよ七大戦が近づいてまいりました。主将倉部からも申し上げたように今年は「男女ともに総合優勝」を掲げ、日々練習に取り組んでいます。これまでの女子パートの活躍を振り返ってみますと、東北インカレ総合 5 位に続き、北大戦では 1 点差ながらも総合優勝を果たし、昨年度の悔しさを晴らすことができました。また、東北インカレにおきましては、主将が不在ながらも多くの部員が 1 点 1 点を大切に競技に取り組み、予想得点を上回る成績を残すことができました。チームとして確実に強くなっている証であると実感しております。七大戦では大阪大学・京都大学が強力なラ

イバルになると予想されます。優勝を成し遂げるためには、1人1人の競技力の向上はもちろん、チームとしてパート部員1人1人を支える団結力が必要不可欠なものとなるでしょう。選手だけでなく、惜しくも正選手に選ばれなかった部員やマネージャー、応援して下さる方々全員の力が合わさって初めて、優勝を成し遂げられると信じております。これまでの大会で培った団結力や競技力をもとに、全員が七大戦の主役として目標に挑み、昨年度の女子総合3位という結果を超えられるよう、より一層気を引き締めて努力していく所存です。また、今年は応援やチームの得点管理にも力を入れ、皆で盛り上がり、勝ちにいく七大戦を皆様にお届けできると思います。このメンバーで戦えることに感謝し、主将として、陸上競技部での活動の集大成として私自身も最後の七大戦に全力で挑みます。

最後になりますが、私たちがこれまで不自由なく練習に取り組めているのは、OBOGの皆様からの温かいご支援のおかげです。皆様に喜びの声をお届けできるよう、引き続き努力してまいりますので、温かく見守っていただけると嬉しいです。

◆短距離PC　神近凛太朗

OBOGの皆様、平素より多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。短距離パートキャプテンを務めております、神近凛太郎です。

先日の東北インカレでは、短距離パートとして男子18点、女子33点を獲得し、男子は総合優勝、女子は総合5位に貢献することができました。この結果を受け、次に控える七大戦では「総合優勝への貢献」を目標として掲げております。やや抽象的ではありますが、より具体的な数値目標として、男子で20点前後、女子で10点前後の得点を目指しています。チーム全体としても、東北インカレ時よりも状態は上向いており、北海道の地で、若い力が躍動する姿をお見せできると確信しております。引き続き、温かいご声援のほどよろしくお願いいたします。

◆ハードルPC　水澤大地

ハードル PC の水澤大地です。今年のハードルパートは多くの 1 年生が加入し選手層の拡充が期待されましたが 4 年生に不調の選手が相次ぎチーム全体の仕上がりは必ずしも順調とは言えない状況です。しかしながら我々が掲げます、全員得点獲得という目標を諦めることはございません。各々ができることに注力し目標達成に向けてパート一丸となって全力を注ぎます。どうぞ応援の程よろしくお願いします。

◆中距離PC　錦戸昴雅

中距離パートのＰＣを務めております、３年の錦戸昴雅です。今回は中距離パートの七大戦の目標、および抱負を述べさせていただきます。

早速ですが、中距離パートとしての七大戦の目標は「男女ミドル優勝」です。男子の中距離種目、そして女子の中長距離種目の総得点で優勝を目指します。東北インカレのときも同様の目標を立て、無事に達成することができましたので、七大戦でも達成し、チームの目標達成に貢献したいと思います。

今シーズンは中距離パート全体で好記録が続出しており、かなりいい流れで七大戦に挑むことができると自負しております。ですが、特に男子に関しては過去最大といってもいいほどにレベルが高い戦いになると予想されます。その中でも勝負にこだわり、勝てる練習をこれから積んでいき、目標を達成できるよう精進していきたいと思います。精一杯頑張りますので応援のほどよろしくお願いたします。

◆長距離 PC　松本修哉

長距離 PC の松本修哉です。私の方から今年の七代戦について抱負を述べさせていただきます。長距離パートではシーズンインから東北インカレや北大戦などの各種大会を経て、七代戦や全日本大学駅伝予選会に向けて着々とレベルアップしてきている状態です。1 年生も少しずつ練習に参加してきており、お互いに刺激し合いながら練習を積んでいます。

1 年生も含め、七代戦で活躍できそうな選手が増えているので、七代戦では少しでも多くの点数をとって、東北大学陸上部に貢献できるようにしたいと思います。また、他パートの応援や OP 種目でのレースなどを通して、対抗戦に出場する選手だけではなく長距離パート全員が七代戦で何かしらの経験や他校からの刺激を得られるようにしたいです。

これからさらに気温が上がり過酷な環境下でのレースも予想されますが、暑さに負けず頑張りますので、引き続きご支援と応援のほどよろしくお願いいたします。

◆跳躍 PC　柴田駿吾

跳躍パート PC を務めさせていただいております、柴田駿吾です。OB・OG の皆様におかれましては日頃より多大なるご支援を賜っておりますことパートを代表して御礼申し上げます。
跳躍パートの七大戦の目標は「全員が得点する」です。この目標に向かい日々練習に取り組んでおります。

今シーズン前半を振り返りますと、東北インカレにおいては大会新記録を更新しての優勝となった島村(4)や自己ベストに迫る好記録を出して優勝した早藤(2)をはじめ、多くの部員が優勝や入賞、自己ベストなどといった活躍を見せることが出来、男子に関して言えば、部初の総合優勝に貢献することが出来たのではないかと振り返っております。また、北大戦においても、多くの部員が専門種目のみならず専門種目以外にも出場し得点獲得に貢献し、優勝奪還に貢献することが出来たと振り返っております。

七大戦は学部生のみが参加します。前述の試合において院生の得点が多くあったことは否めず、院生頼みなってしまっていた種目も少なくありません。そのような種目は特に得点するのが困難かも知れませんが、学部生全員が自分たちもと奮起し目標達成に向けて頑張っております。私も怪我の影響で遅れましたが先日シーズンインすることが出来ました。私個人としましても、今一度目標達成に向けてパート全体で邁進できるよう、パートをリードする気持ちを持って日々の練習に取り組んで参りたいと思います。応援のほどよろしくお願いいたします。

◆投擲 PC　増田併介

投擲 PC の増田です。投擲パートは昨年の七大戦で多くの得点を取ってチームに貢献しました。そこからさらに練習メニューを作ったり、他大学との合同練習を行ったり、外部コーチを呼んだりして組織として強い投擲パートづくりに取り組んできました。その成果もあり、七大戦の正選手はどの種目でも得点圏内の選手が二人以上おり、選手層が厚くなっています。正選手全員が確実に点を取って今年もチームに貢献したいと思います。応援よろしくお願いします。

◎自己ベスト更新者一覧(4/7~6/30)

男子 100m

細川翼(2)　11.39(+0.9)　県春季(4/19)

小南慧馬(3)　11.10(-0.9)　東北インカレ(5/16)

女子 200m

白鳥名花(2)　24.30(+1.6)東北インカレ(5/18)

▲部記録更新 !!

男子 200m

室田竜磨(3)　21.48(+0.1)　北大戦 OP(6/15)

岸本醍知(2)　21.63(+0.1)　北大戦 OP(6/15)

稲谷将幸(3)　22.90(+0.8)　仙台大記録会(5/25)

男子 400m

岸本醍知(2)　48.27　東北インカレ(5/16)

渡邉優典(3)　49.01　仙台大記録会(4/12)

星川昂太(3)　51.12　北大戦(6/15)

男子 800m

渡邉優典(3)　1:50.01　学生個人選手権(4/26)

▲部記録更新 !!

縣昌幸(2)　1:53.29　県春季(4/20)

錦戸昂雅(3)　1:54.90　東北インカレ(5/18)

富田綾人(M2)　1:55.39　群馬県選手権(6/29)

保科陽斗(1)　2:00.71　仙台大記録会(5/25)

女子 800m

喜多和奏(2)　2:16.57　東北インカレ(5/18)

越後谷苑葉(2)　2:25.23　東北インカレ(5/18)

男子 1500m

渡邉優典(3)　3:46.33　全日本インカレ(6/5)

▲部記録更新＆東北学生新記録 !!

縣昌幸(2)　4:04.23　仙台大記録会(5/24)

鈴木朝陽(2)　4:11.63　仙台大記録会(6/14)

男子 5000m

山内滉介(2)　15:51.05　花巻トラック(4/29)

佐藤壮真(3)　15:54.90　北大戦 OP(6/15)

櫻井航(2)　15:56.21　仙台大記録会(5/25)

大川祐貴(3)　17:26.45　花巻トラック(4/29)

女子 5000m

江口真央(4)　18:41.56　東北インカレ(5/18)

塩見薫(3)　18:46.82　東北インカレ(5/18)

男子 400mH

水澤大地(3)　54.70　県春季(4/20)

男子 3000mSC

杉山大輔(4)　9:23.05　東北インカレ(5/17)

鈴木拓真(3)　9:59.55　東北インカレ(5/17)

男子 10000mW

山中遼平(3)　47:54.15　東北インカレ(5/18)

男子ハーフマラソン

熊谷慧(3)　73:15　仙台国際ハーフ(5/11)

男子走幅跳

早藤海音(2)　7m41　全日本インカレ(6/6)

小南慧馬(3)　6m98　東北インカレ(5/17)

女子走幅跳

大槻真優(2)　5m26　東北インカレ(5/17)

男子棒高跳

島村惟葵(4)　5m10　東北インカレ(5/17)

▲東北 IC　NGR

倉部彰土(4)　3m80　東北インカレ(5/17)

男子円盤投げ

宮崎ローレンス(4) 36m20　北大戦(6/15)

金岡有途(4)　29m16　東北インカレ(5/16)

石井誠太郎(2)　28m76　東北インカレ(5/16)

男子ハンマー投げ

富家彬就(M1)　44m05　仙台大記録会(6/28)

女子三段跳

古閑詩季(2)　10m38(-0.3)　県春季(4/20)

男子十種競技

小出寿啓(6)　6362 点　東北インカレ(5/18)

◎今後の予定

・7/26-27　七大戦(北海道・円山陸上競技場)
・9/20-21　第 76 回東北地区大学体育大会陸上競技(宮城・仙台市陸上競技場)
・9/27　秩父宮賜杯第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
・9/27　第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
・9/27　第 18 回東北学生女子駅伝対校選手権大会(宮城・仙台大学陸上競技場)

◎編集後記

今シーズンは東北インカレで男子が総合優勝、北大戦では男女ともに優勝と、チームの実力はうなぎ登りとなっております。7 月に入り、七大戦に向けてチーム内の士気も高まっており、日々暑さに負けずに練習を積み重ねています。チーム目標達成に向けて、選手、マネージャー、スタッフ一丸となってより一層努力して参りますので、今後もあたたかいご声援賜りますようお願い申し上げます。

文責 OBOG 通信担当 宮下尚丈
編集補助　大村将伸、安藤彩澄

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp